

Title	執筆者紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1979
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.49, No.2/3 (1979. 6) ,p.165(275)- 165(275)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19790600-0165

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

機能の歴史を軸とする「文書史」とも考えられ、且つ、前記「古記録学」も、「文献学」、「書誌学」なども同一線上で考えることが大切であろう。

更に、本講座に即していえば、各方面で刊行されている史料集についても問題を指摘しなければならぬ。原文書の活字化は、古文書の活用が容易になる手段として、或いは又、活字による第二次的保存としても益ある所為である。しかし、その編纂の規準は多様であり、個性的に過ぎる。古文書が、形態、機能の両面より史料的价值が付加されることからすれば、この間の統一を如何にして整理するかについての試策がなされるべきではなからうか。原文書の保存の研究を第一義とすることに異存はないが、活字化された文書の保存研究も又、原文書と近似した状況でなされる条件が必要であろう。「日本古文書学講座」が諸々の課題にどう応え得るか期待したい。そして、これを機に大学等での「古文書学」教育が再考され改善されることを望む次第である。

執筆者紹介

河北展生	慶応義塾大学文学部教授
可児弘明	慶応義塾大学文学部教授
長谷川誠夫	慶応義塾大学文学部講師
佐藤一郎	慶応義塾大学文学部教授
清水祐司	慶応義塾大学院博士課程
坂本勉	慶応義塾大学文学部助手
伊藤清司	慶応義塾大学文学部教授
近森正	慶応義塾大学文学部教授
市原常夫	慶応義塾大学文学部学生
和田博徳	慶応義塾大学文学部教授
藤原利一郎	京都女子大学文学部教授
東畑隆介	慶応義塾大学文学部助教授
糸賀茂男	慶応義塾大学院博士課程